

平成 28 年度 第 1 回（震災後 第 6 5 回）

陸前高田市保健医療福祉未来図会議

平成 28 年 4 月 15 日(金) 13:30～15:30

陸前高田市役所 4 号棟第 6 会議室

次 第

◆テーマ

「6 年目を迎えた陸前高田市におけるそれぞれの取組み

～個を活かす多様な形のコミュニティづくりに向けて～」

1 あいさつ

陸前高田市 民生部長 菅野利尚

2 内容

（1）未来図会議のめざすところ

陸前高田市地域包括ケアアドバイザー 岩室紳也氏

（2）報告

報告①「被災者支援室から見た被災者の住宅再建状況について」

陸前高田市 民生部保健課 寺西達生

報告②「被災者を対象とした保健活動」

陸前高田市 民生部保健課 菅野わか

報告③「生活支援相談員の活動について～震災から 6 年目に向けて～」

陸前高田市社会福祉協議会 生活支援部門 安田留美氏

報告④「市民交流プラザ活動報告」

陸前高田市地域包括ケアコーディネーター 行本清香氏

（3）グループディスカッション（グループではまってけらいん、かだつてけらいん）

⇒ テーマ：これからのコミュニティづくりに関するそれぞれの役割

～さまざまあっていいコミュニティづくり、居場所づくり～

3 その他連絡・アナウンス

【事務局：陸前高田市民生部】

※次回：平成 28 年 5 月 27 日（金） 13：30～15：30

◆5月メインテーマ（仮）：**下和野市民交流プラザから学ぶコミュニティの自発的な
拡がりを促進していくためには**

- ・健康調査報告：陸前高田市、大槌町における応急仮設住宅訪問調査の結果から
岩手県釜石保健所・大船渡保健所 所長 久保慶祐氏

◆会場：市役所 第4号棟 第6会議室

平成28年度の陸前高田市保健医療福祉未来図会議（月1回）の予定

○日程（予定）

H28年：4/15（金）、5/27（金）、6/17（金）、7/22（金）、8/19（金）、9/16（金）、
10/14（金）、11/11（金）、12/16（金）
H29年：1/20（金）、2/17（金）、3/17（金）

○大きな方向性：私から始める他人（ひと）ごと意識の解消

～ノーマライゼーションという言葉のいらぬまちづくりの実践～

- ・「はまってけらいん、かだってけらいん運動」の推進
- ・ハイリスクアプローチとポピュレーションアプローチの融合・実践
- ・市民・他分野機関との協働、未来図（計画）策定
- ・居場所づくり、相互の経験に学ぶネットワークづくり

○陸前高田市保健医療福祉未来図会議メーリングリスト

◆こちらまでお知らせください。

<http://goo.gl/forms/NFUsNqBn3c>



本日（H28.4/15）の会議の概要

◆テーマ
 6年目を迎えた陸前高田市における
 それぞれの取組み
 ～個を活かす多様な形のコミュニティ
 づくりに向けて～

本日（H29.4/15）の会議の進め方①

◆タイムスケジュール ～14:15

(1) 未来図会議のめざすところ
 ⇒ 陸前高田市 地域包括ケアアドバイザー 岩室紳也氏

(2) 報告
 報告① 「被災者支援室から見た被災者の住宅再建状況について」
 陸前高田市 民生部保健課 寺西達生
 報告② 「被災者を対象とした保健活動」
 陸前高田市 民生部保健課 菅野わか

本日（H29.4/15）の会議の進め方②

◆タイムスケジュール ～14:15

(2) 報告
 報告③ 「生活支援相談員の活動について
 ～震災から6年目に向けて～」
 陸前高田市社会福祉協議会
 生活支援部門 安田留美氏
 報告④ 「市民交流プラザ活動報告」
 陸前高田市地域包括ケアコーディネーター
 行本清香氏

本日（H28.4/15）の会議の進め方③

◆タイムスケジュール 14:40～15:00

(3) グループディスカッション
 テーマ: これからのコミュニティづくりにおけるそれぞれの役割
 ～さまざまあっていいコミュニティづくり、居場所づくり～

15:15～ 個別アナウンス・周知

グループディスカッションのまとめ方

これからのコミュニティづくりにおけるそれぞれの役割

行政の役割	関係機関の役割	市民の役割
■ ■ ■	■ ■ ■	■ ■

陸前高田市保健医療福祉未来図会議

の目指すところ

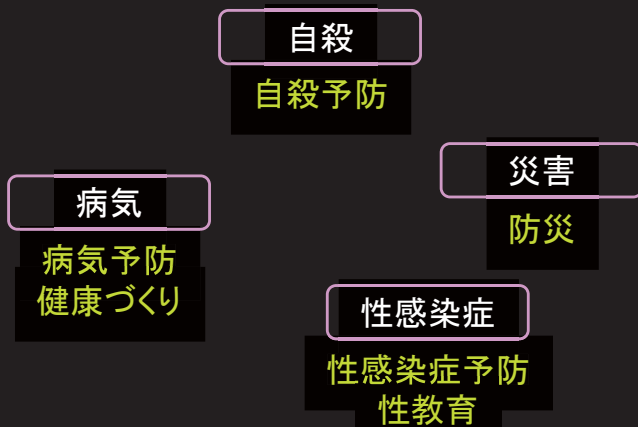
ハイリスク者対策 (困難を抱えた人対策)

と

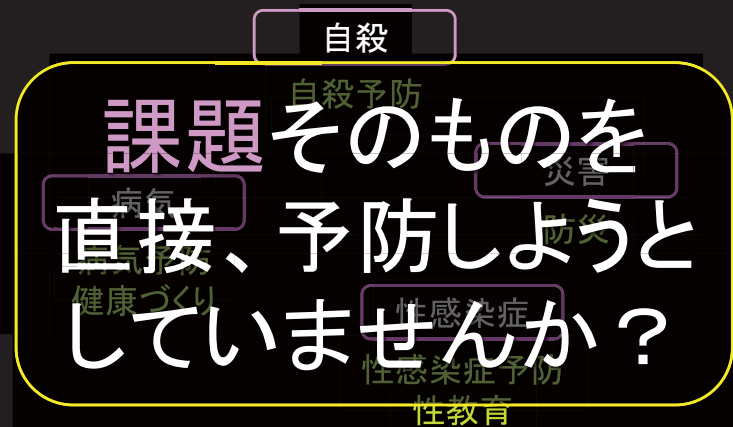
社会に蔓延するリスク軽減 (誰もが抱える社会の障壁対策)

の違い

日本人の課題解決的発想



日本人の課題解決的発想



自殺実態白書 2013

【第一版】

2013年3月

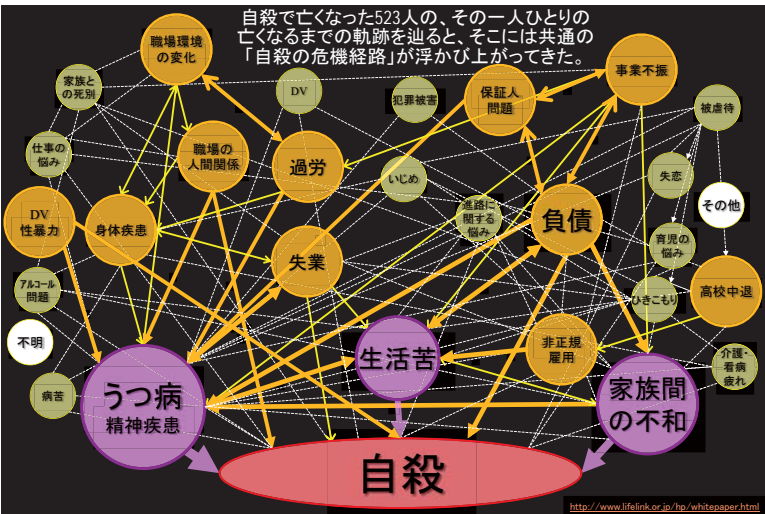
NPO 法人ライフリンク

<http://www.lifelink.or.jp/hp/whitepaper.html>

1) 自殺の危機要因となり得るものは69個ある。(下記は、本プロジェクトチームが認定した危機要因。カッコ内は抱えられていた回数。)

健康問題 (631) 身体疾患 (腰痛) (18)、身体疾患 (その他) (88)、うつ病 (274)、統合失調症等 (97)、アルコール問題 (34)、病気 (17)、認知症 (2)、出産 (1)
経済・生活問題 (414) 倒産 (11)、事業不振 (60)、失業 (57)、就職失敗 (23)、生活苦 (66)、負債 (多重債務) (82)、負債 (住宅ローン) (10)、負債 (その他) (31)、借金の取り立て苦 (26)、連帯保証 (20)、経営の悩み (6)
家庭問題 (354) 家族間の不和 (親子) (71)、家族間の不和 (夫婦) (76)、家族間の不和 (その他) (17)、家族との死別 (自殺) (22)、家族との死別 (その他) (30)、家族の将来悲観 (6)、離婚の悩み (47)、被虐待 (当時) (4)、DV被害 (19)、育児の悩み (30)、介護・看病疲れ (24)、親の不仲・離婚 (6)、妊娠・不妊の悩み (1)
勤務問題 (366) 仕事の失敗 (39)、職場の人間関係 (95)、職場環境の変化 (配置転換) (43)、職場環境の変化 (昇進) (17)、職場環境の変化 (降格) (6)、職場環境の変化 (転職) (19)、休職 (13)、過労 (69)、職場のいじめ (11)、仕事の悩み (51)、定年退職 (3)
学校問題 (95) 進路の悩み (入試) (7)、進路の悩み (その他) (22)、学業不振 (8)、いじめ (4)、教師との関係 (15)、生徒との関係 (15)、ひきこもり (16)、不登校 (6)、教師からの死責 (1)
男女問題 (37) 結婚をめぐる悩み (6)、失恋 (16)、不倫の悩み (13)、恋人の自殺 (1)、性同一性障害 (1)
その他 犯罪発覚 (3)、犯罪被害 (7)、後追い (1)、心中 (8)、近隣関係 (15)、将来生活への不安 (29)、単身赴任 (2)、災害 (その他) (3)、親への家庭内暴力 (2)、高校中退 (5)、事故 (7)、同業者・同僚の自殺 (1)、配偶者への暴力 (4)、その他 (73)

自殺で亡くなった523人の、その一人ひとりの亡くなるまでの軌跡を辿ると、そこには共通の「自殺の危機経路」が浮かび上がってきた。



<http://www.lifeline.or.jp/hp/whitopaper.html>

そのために、まずは課題の**原因**追求をします

解決したい課題

自殺

課題の原因

うつ病

生活苦

家族の不和

そのために、まずは課題の**原因**追求をします

解決したい課題

自殺

他人事意識？
経験するまで学べない

精神科
で治療

雇用の
改善

仲良く
しよう

課題の原因

うつ病

生活苦

家族の不和

人は **経験** に学ぶ

経験していないことは **他人事**

課題解決か**リスク**マネジメントか

解決したい課題

自殺

再チャレンジ

同じ状況でも
別の結果も

課題に
つながる
リスクは何？

あり

なし

リスク

課題の原因

うつ病

生活苦

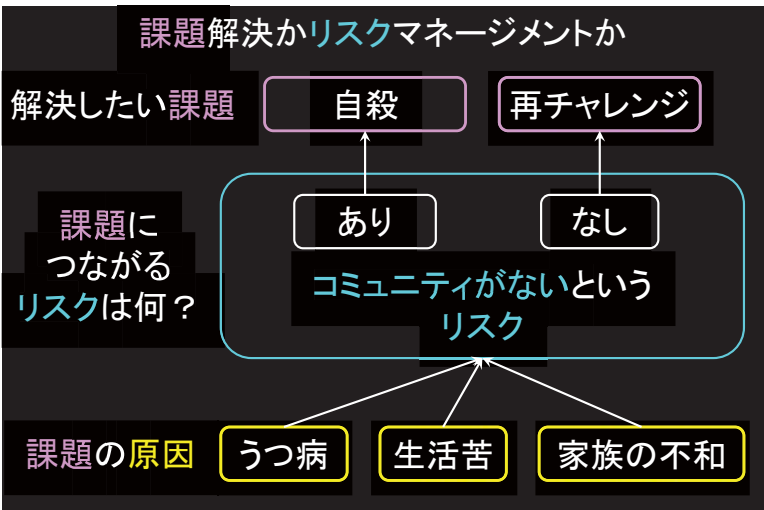
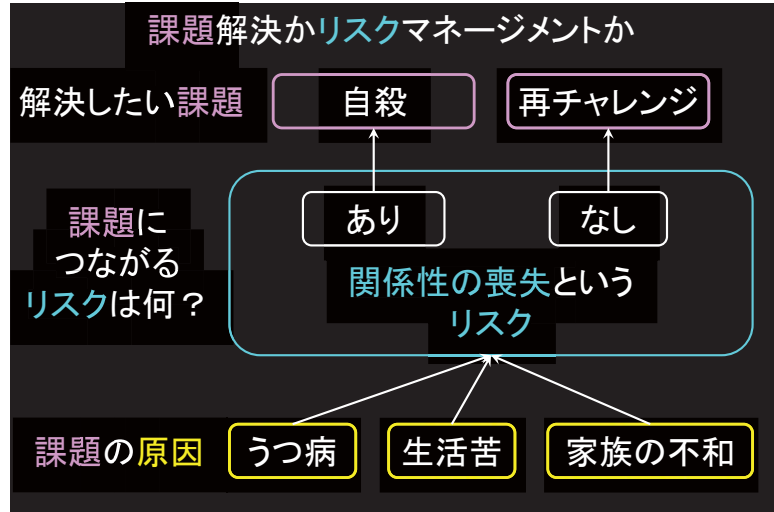
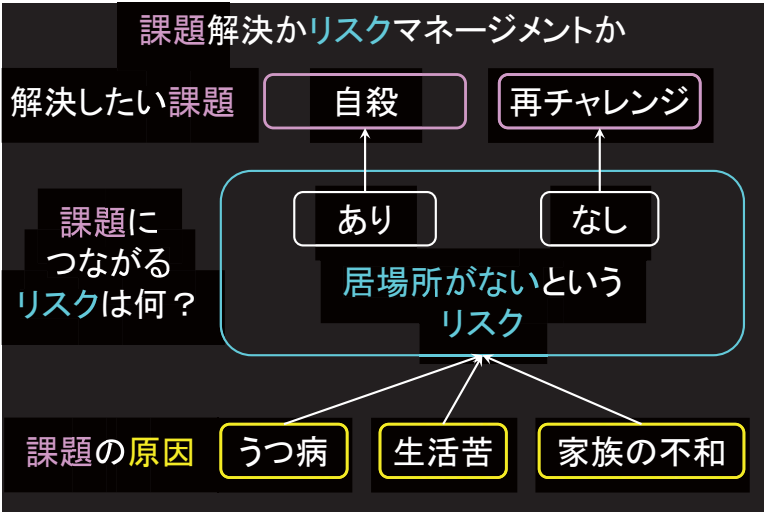
家族の不和

課題の原因

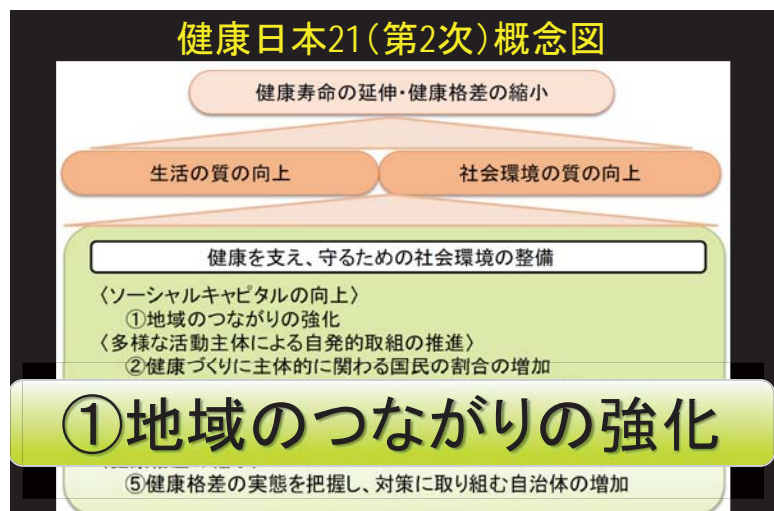
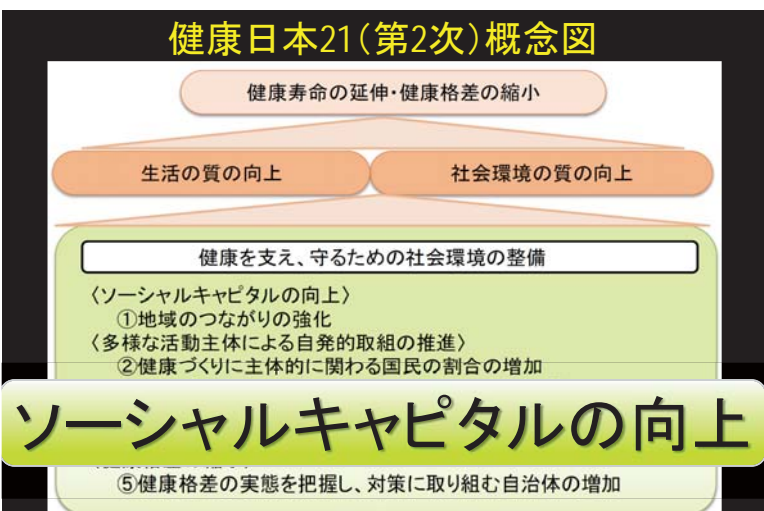
うつ病

生活苦

家族の不和



急がば回れ
メタボもこころのトラブルも
居場所づくりから



「つながり」

たとえば

「絆」？

絆

はどう読みますか

絆(きずな)

つながり むすびつき

絆(ほだし)

手かせ 足かせ 迷惑 束縛

相反するから「お互い様」

ソーシャル・キャピタル(社会関係資本)の三要素

信頼

3つは相互に関連

ネットワーク

規範(互酬性)

お互い様

絆(きずな: つながり, むすびつき)

絆(ほだし: 手かせ, 足かせ, 束縛, 迷惑)

http://www.jpba.or.jp/sib/memo04_10.html

ソーシャル・キャピタル(絆[きずな+ほだし])の効用

健康面の効用

総死亡率 ↓

自殺率 ↓

自覚的健康度 ↑

健康行動 ↑

喫煙率 ↓

運動習慣 ↑

健康以外の効用

行政効率

まちおこし

防災対策

治安・防犯

子育て

教育

就労

経済成長

技術革新

ソーシャル・キャピタル(絆[きずな+ほだし])

平成26年度厚生労働科学研究(健康安全・危機管理対策総合研究事業)「地域保健対策におけるソーシャルキャピタルの活用の方策に関する研究」
http://www.jpba.or.jp/sib/memo04_10.html

ソーシャル・キャピタル(社会関係資本)の三要素

信頼

3つは相互に関連

ネットワーク

規範(互酬性)

お互い様

絆(きずな: つながり, むすびつき)

絆(ほだし: 手かせ, 足かせ, 束縛, 迷惑)

http://www.jpba.or.jp/sib/memo04_10.html

ソーシャル・キャピタルを
いつ、誰が、どうやって
醸成？

多様な方のコミュニティ・地域づくり

地縁

地域人材活用型
(保健推進員)
(行政区の活用)

地域資源活用型
(お祭り)

絆
ほだし
(弱)

絆
ほだし
(強)

多様なきっかけ
参加のしやすさ
排他性の排除
現場を知ろう
過疎地も災害公営も
声かけ

居場所型
(サロン)
(交流プラザ)
(きらりんキッズ)

イベント型
(ラジオ体操)
(料理教室)
(ノルディックウォーク)
(一本松クラブ)
(災害公営入居者)

自主活動型
(玄米ギニギ体操)

共通の目的・テーマ

ハイリスク者対策 (困難を抱えた人対策)

と

社会に蔓延するリスク軽減

(誰もが抱える社会の障壁対策)

見守り・相談・訪問・サロン・交流プラザ

の違い

ソーシャル・キャピタル(絆[きずな+ほだし])の効用

健康面の効用

総死亡率 ↓

自殺率 ↓

自覚的健康度 ↑

健康行動 ↑

喫煙率 ↓

運動習慣 ↑

健康以外の効用

行政効率

まちおこし

防災対策

治安・防犯

子育て

教育

就労

経済成長

技術革新

ソーシャル・キャピタル(絆[きずな+ほだし])

平成26年度厚生労働科学研究(健康安全・危機管理対策総合研究事業)
「地域保健対策におけるソーシャルキャピタルの活用の方に関する研究」
<http://www.ipsh.or.jp/shimamori/10.html>





被災者支援室から見た 被災者の住宅再建状況について

住宅再建意向調査から見えてくる仮設住宅入居者のいま

陸前高田市民生部保健課保健係 主任 寺西 達生

1 弔慰金・被災者生活再建支援金の受給状況

- 陸前高田の人的被害状況
死者数1,554人 行方不明者数205人（H28.2.29時点）
- 災害弔慰金受給状況
対象者数 1,580人 受給者数 1,575人（H28.3.31時点）
※残り5件については、未成年後見人未選任等の理由あり、全件につき事情把握
- 家屋の被害状況
全壊3,805世帯 大規模半壊114世帯 半壊122世帯（H26.6.30時点）
- 基礎支援金受給状況
対象世帯数3,652世帯 受給世帯数3,593世帯（H28.2.29時点）
※残り59件については、帰国後の居所不明（中国人研修生）等の理由あり
- 加算支援金受給状況から見る住宅再建
基礎支援金受給世帯数3,593世帯 加算支援金受給世帯数1,652世帯
（H28.2.29時点）



約46%の世帯が住宅再建着手
（※災害公営住宅入居世帯335を加えれば約55%が再建）

2 仮設住宅入居者へのアンケート結果

- 市内の応急仮設住宅に対して市復興対策局がアンケート発送
- 締切までに回答がなかった世帯に対し、被災者支援室が戸別訪問を実施
- 回答率は90%以上
- 回答者の内、約80%の人は2～3年以内に仮設住宅を出る見通しである
- 一方で、回答者の内約20%の方が、調査時（平成27年7月～9月）から3年以上の入居期間の延長を希望している
- 戸別訪問の際に聞かれた意見

災害公営住宅の家賃を払えない・・・

仮設から災害公営住宅には入らずに、直接新しい家に引越したい・・・

災害公営住宅での、新しい近所づきあいが苦痛、周りに知り合いのいる仮設に居たい・・・

まだ何も考えていない・・・
(アンケートに対する答えが本人の頭の中にない)

3 住民のこれからに向けて

- ◆ 下和野災害公営住宅市民交流プラザの維持管理の実施により、被災者の見守り・支援体制の強化を図っている。交流プラザの運営は、災害公営住宅や新しい地域に移転してきた住民の新たなコミュニティづくりを支援するほか、拠点为谁にでも開かれた場として活用できるように、周辺地域の既存住民との交流を図る取り組みを行うものである。
- 一方で下記のように災害公営住宅毎に入居率の差が生じている。

団地名	建設戸数	入居戸数
下和野	120	116
西下	40	36
柳沢前	28	18

団地名	建設戸数	入居戸数
中田	197	128
大野	31	15
田端	14	6
水上	30	16

※ 最終的には895戸建設予定
(460戸建設済)

- ◆ 応急仮設住宅の撤去・集約化の基本方針（建設課発表）
 - ・ 現入居者の意向の尊重
 - ・ **地域コミュニティの維持**
 - ・ 移転者の負担軽減

必要最小限度の転居

転居先の仮設住宅でも、住宅再建のタイミングの違い、再度の別の仮設への移転などにより、住民の数や関係性も変化していくので、地域コミュニティの維持は長期に亘り問題となる。ただし、問題の性質上、行政が出来ることには限界がある。そこで、**住民の皆様のアイデアや、働きかけが大切になる**

2 仮設住宅入居者へのアンケート結果

- 市内の応急仮設住宅に対して市復興対策局がアンケート発送
- 締切までに回答がなかった世帯に対し、被災者支援室が戸別訪問を実施
- 回答率は90%以上
- 回答者の内、約80%の人は2～3年以内に仮設住宅を出る見通しである
- 一方で、回答者の内約20%の方が、調査時（平成27年7月～9月）から3年以上の入居期間の延長を希望している
- 戸別訪問の際に聞かれた意見

災害公営住宅の家賃を払えない・・・

仮設から災害公営住宅には入らずに、直接新しい家に引越したい・・・

災害公営住宅での、新しい近所づきあいが苦痛、周りに知り合いのいる仮設に居たい・・・

まだ何も考えていない・・・
(アンケートに対する答えが本人の頭の中にない)

3 住民のこれからに向けて

- ◆ 下和野災害公営住宅市民交流プラザの維持管理の実施により、被災者の見守り・支援体制の強化を図っている。交流プラザの運営は、災害公営住宅や新しい地域に移転してきた住民の新たなコミュニティづくりを支援するほか、拠点为谁にでも開かれた場として活用できるように、周辺地域の既存住民との交流を図る取り組みを行うものである。
- 一方で下記のように災害公営住宅毎に入居率の差が生じている。

団地名	建設戸数	入居戸数
下和野	120	116
西下	40	36
柳沢前	28	18

団地名	建設戸数	入居戸数
中田	197	128
大野	31	15
田端	14	6
水上	30	16

※ 最終的には895戸建設予定
(460戸建設済)

- ◆ 応急仮設住宅の撤去・集約化の基本方針（建設課発表）
 - ・ 現入居者の意向の尊重
 - ・ **地域コミュニティの維持**
 - ・ 移転者の負担軽減



必要最小限度の転居



転居先の仮設住宅でも、住宅再建のタイミングの違い、再度の別の仮設への移転などにより、住民の数や関係性も変化していくので、地域コミュニティの維持は長期に亘り問題となる。ただし、問題の性質上、行政が出来ることには限界がある。そこで、**住民の皆様のアイデアや、働きかけが大切になる**

被災直後から

被災者を対象とした 保健活動

陸前高田市民生部保健課
保健師 菅野 わか

◆健康生活調査

	時期	目的	対象	調査世帯数	備考
1	(被災直後) 平成23年4月～5月	・住民基本台帳の流失のため住民の所在確認 ・現在の健康や生活の状況を確認 ・緊急性の高い要支援者の把握	全市民	約5,300	大船渡保健所 全国派遣チーム 他市町の調査協力
	平成23年5月10日 ～5月29日	・避難所における食事栄養状況調査	避難所		全国栄養士会
臨時	(被災5ヶ月～1年後) 平成23年8月 ～平成24年3月	・仮設住宅への異動の開始に伴い、新しい生活への不安、コミュニティーの再構築への支援 ・第1回健康調査にて要支援となった人への継続訪問	仮設住宅及び要支援者	約2,200	平成23年5月31日 仮設住宅健康相談員創設 サロンの立ち上げ (派遣チームム減)
2	(被災8～9ヶ月後) 平成23年11月 ～平成23年12月	・初回健康生活調査時に把握された個人宅避難者でまだ仮設に入居していない人への継続支援 ・仮設住宅非面接者(日中不在者)への面接	①在宅被災者 ②仮設住宅非面接者	①約2,000 ②仮設400	県内外の調査協力 休日訪問の実施
3	(被災1年半～2年半後) 平成24年8月 ～平成25年10月	・自宅を被災していない住民へのこころのケア	仮設・みなし仮設以外の住民	約5,000	県内外保健師・ここセン 月1回の訪問強化週間を 設け実施
4	(被災3年4ヵ月後) 平成26年7月 ～平成26年10月	・訪問し話すことにより、不安等の軽減を図る ・心身の健康リスクを抱える人を把握し、フォローアップする	①小規模仮設住宅世帯 ②自力再建世帯	①約352 ②約214	県内陸保健所 ここセン

平成27年度被災者を対象とした健康支援の状況

事業名	事業実績	内容等	課題等	
訪問指導	訪問世帯数 (仮設)実 93世帯 (公営)実 23世帯 (在宅)実 56世帯 延 491世帯	訪問件数 (延)1,245件	・健康生活調査で把握した要支援者へ継続訪問。 ・保健活動や関係機関との連携の中で把握された高齢者やハイリスク世帯への訪問	生活環境の大きな変化があり、庁内連携と関係機関とより密に連携しながらの対象者把握が必要
健康相談	実施箇所(市)13カ所 実施回数 計 151回 (予防協実施 33カ所)	被相談者数 1,070人	地域で開催しているお茶っこサロン等において、血圧測定・健康相談を実施。	・サロン参加者の減少 ・参加者の固定化
健康教育	実施回数 29回	参加者数(延) 約500人	サロンや地域の集会所で、講話や運動実技などの教室を開催	開催場所と参加者の固定化
健康運動教室	実施回数 131回 (仮設8カ所 公営1カ所)	参加者数(延) 2,012人	仮設住宅内でラジオ体操など軽体操を定期的実施(健康運動指導士)	「自主的に開催できる仮設もできました。次は公営住宅にもっと広めたい。住民同士がつながるきっかけに……」
栄養教室	「男の料理教室」7回 食改による栄養教室 3回	参加者数(延) 341人	男性の心身の健康増進を図るために、健康チェック・調理実習、栄養講話	「男の料理教室」への仮設入居者の参加は少ない。



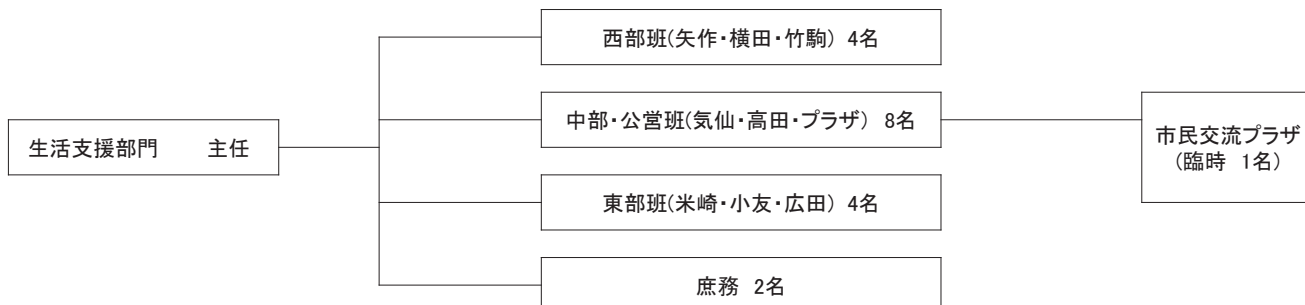
生活支援相談員の活動について ～震災から6年目に向けて～



陸前高田市社会福祉協議会
生活支援部門 安田留美

◇陸前高田市社会福祉協議会の生活支援相談員配置状況

(平成28年4月現在)



- 支援活動：
 - ◆ 応急仮設住宅、みなし仮設住宅、在宅被災者の見守り訪問
 - ◆ 情報提供や傾聴・相談支援、健康状態等を把握し、行政や関係機関と共有し一体的な見守り活動
 - ◆ 仮設住宅集会所や地区コミュニティセンターを利用した「サロン（お茶っこ飲み会）」の開催（市内11か所）
 - 孤立防止や被災者同士の交流

★生活支援相談員の対象世帯数(平成28年3月末現在)

【※ 生活支援部門把握分】

	重点見守り	通常見守り	見守り不要	不明・その他	合計	うち65歳以上 高齢者世帯
仮設	36	1,086	136	71	1,329	560
みなし仮設	0	50	1	0	51	20
災害公営住宅	33	269	30	7	339	166
修繕・再建	7	67	125	0	199	133
移住・再建	1	42	70	33	146	78
その他	0	29	6	0	35	18
住宅等被災無	6	55	7	0	68	64
計	83	1,598	375	111	2,167	1,039

★平成25年度から平成27年度のデータ比較
～3月期の訪問対象世帯数の推移～

	重点見守り			通常見守り			見守り不要			不明・その他			計		
	H25	H26	H27	H25	H26	H27	H25	H26	H27	H25	H26	H27	H25	H26	H27
仮設	105	60	36	1,728	1,413	1,086	21	42	136	60	66	71	1,914	1,581	1,329
みなし仮設	6	4	0	96	69	50	0	0	1	0	0	0	102	73	51
災害公営住宅	0	1	33	0	11	269	0	0	30	0	0	7	0	12	339
修繕・再建	10	8	7	163	126	67	0	0	125	2	0	0	175	134	199
移住・再建	3	0	1	11	30	42	0	0	70	0	0	33	14	30	146
その他	4	1	0	54	37	29	0	0	6	0	0	0	58	38	35
住宅等被災無	16	8	6	66	53	55	0	0	7	1	0	0	83	60	68
計	144	82	83	2,118	1,741	1,598	21	42	375	63	65	111	2,346	1,928	2,167

★平成25年度から平成27年度のデータ比較
～3月期の訪問活動内容の推移～

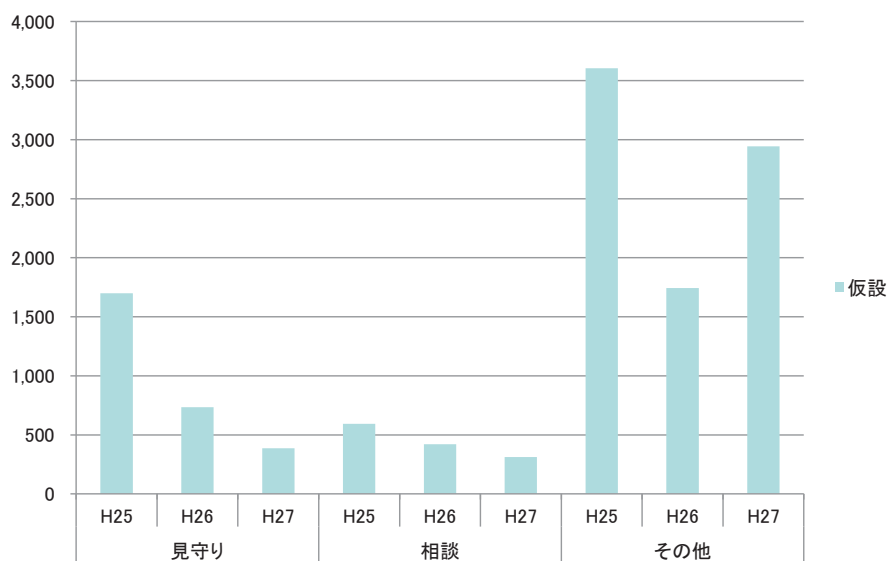
	見守り			相談			その他			計		
	H25	H26	H27	H25	H26	H27	H25	H26	H27	H25	H26	H27
仮設	1,699	734	387	594	421	312	3,605	1,743	2,943	5,898	2,898	3,642
みなし仮設	73	11	10	30	15	24	106	29	104	209	55	138
災害公営住宅	0	4	38	0	7	60	0	6	254	2	17	352
修繕・再建	98	63	28	47	30	47	66	57	127	211	150	202
移住・再建	14	14	7	7	18	30	11	4	18	32	36	55
その他	42	16	8	18	14	13	19	12	62	79	42	83
住宅等被災無	19	5	2	19	37	37	18	18	28	56	60	67
計	1,945	847	480	715	542	523	3,825	1,869	3,536	6,487	3,258	4,539

★平成25年度から平成27年度のデータ比較
～3月期の相談対応内容別の推移～

	日常生活			健康・保健医療			家族			住居			介護			就労			法律・制度			近隣			その他			計		
	H25	H26	H27	H25	H26	H27	H25	H26	H27	H25	H26	H27	H25	H26	H27	H25	H26	H27	H25	H26	H27	H25	H26	H27	H25	H26	H27			
被災あり	392	240	292	329	153	139	260	177	146	105	127	166	24	18	12	42	33	26	11	2	7	86	80	85	150	202	170	1,399	1,032	1,043
被災なし	19	29	23	12	17	24	11	18	20	2	2	3	2	1	2	1	1	0	0	1	1	3	5	7	3	21	20	53	95	100
計	411	269	315	341	170	163	271	195	166	107	129	169	26	19	14	43	34	26	11	3	8	89	85	92	153	223	190	1,452	1,127	1,143

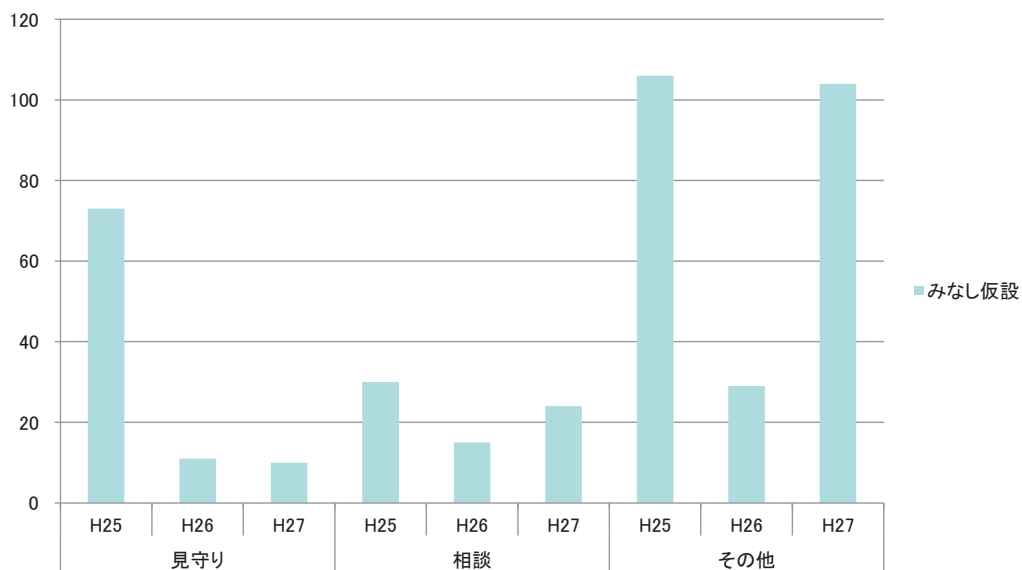
★対象世帯の居住区分別の訪問対応の比較

仮設



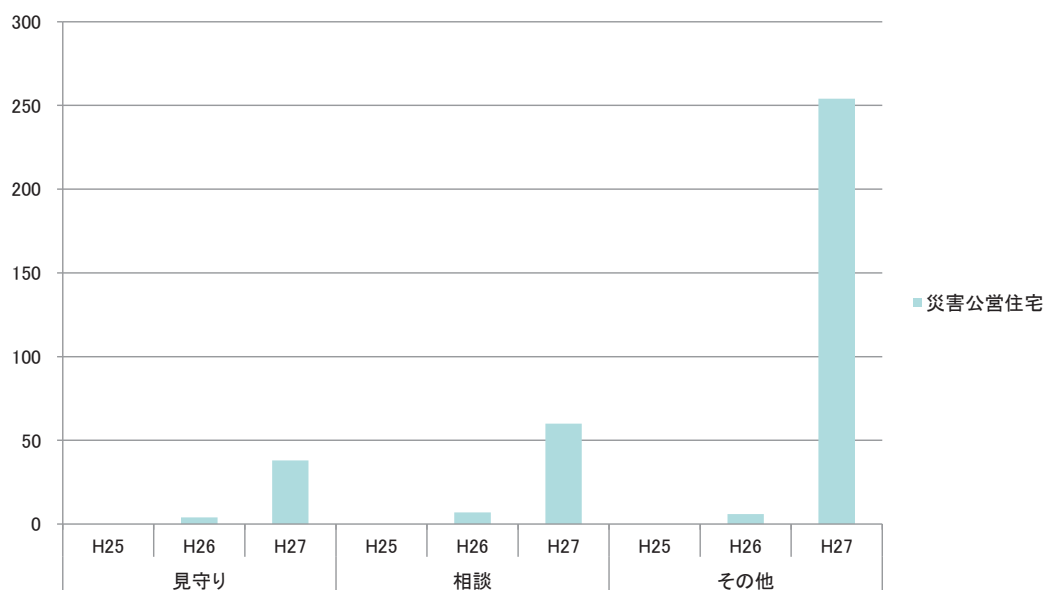
★対象世帯の居住区分別の訪問対応の比較

みなし仮設



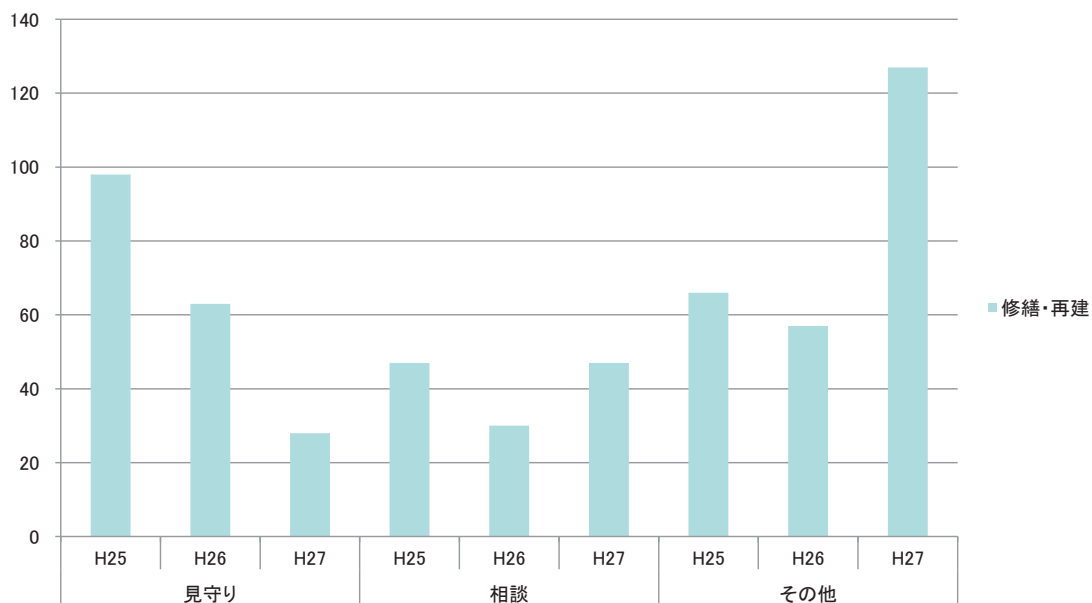
★対象世帯の居住区分別の比較

災害公営住宅



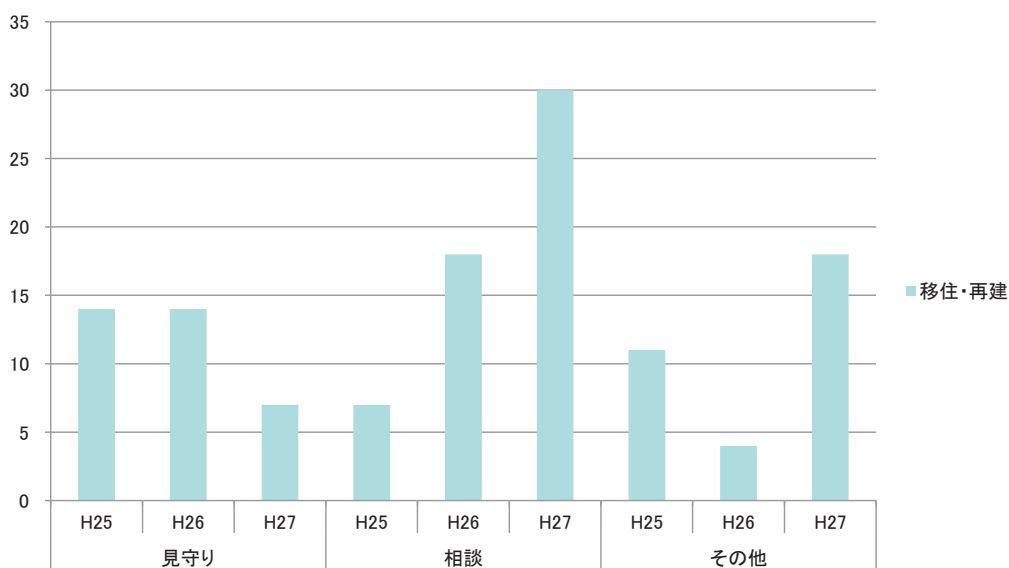
★対象世帯の居住区分別の訪問対応の比較

修繕・再建



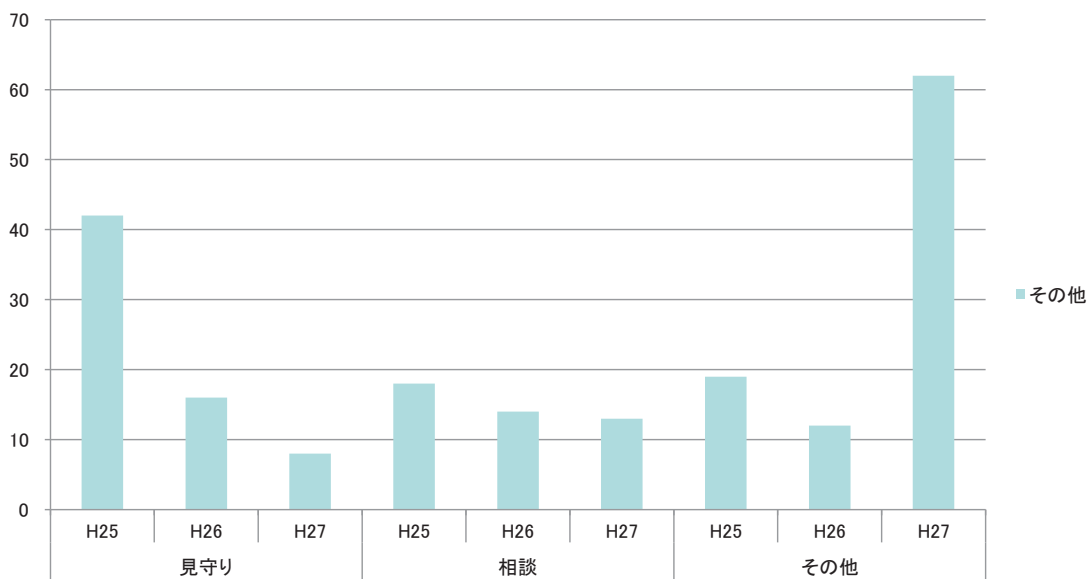
★対象世帯の居住区分別の訪問対応の比較

移住・再建



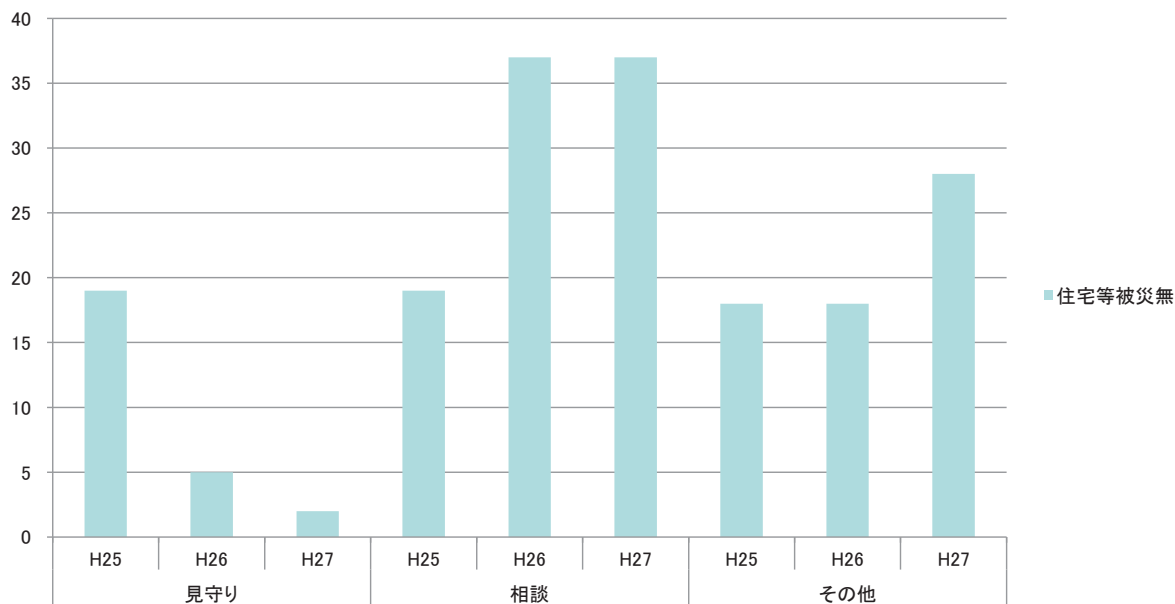
★対象世帯の居住区分別の訪問対応の比較

その他



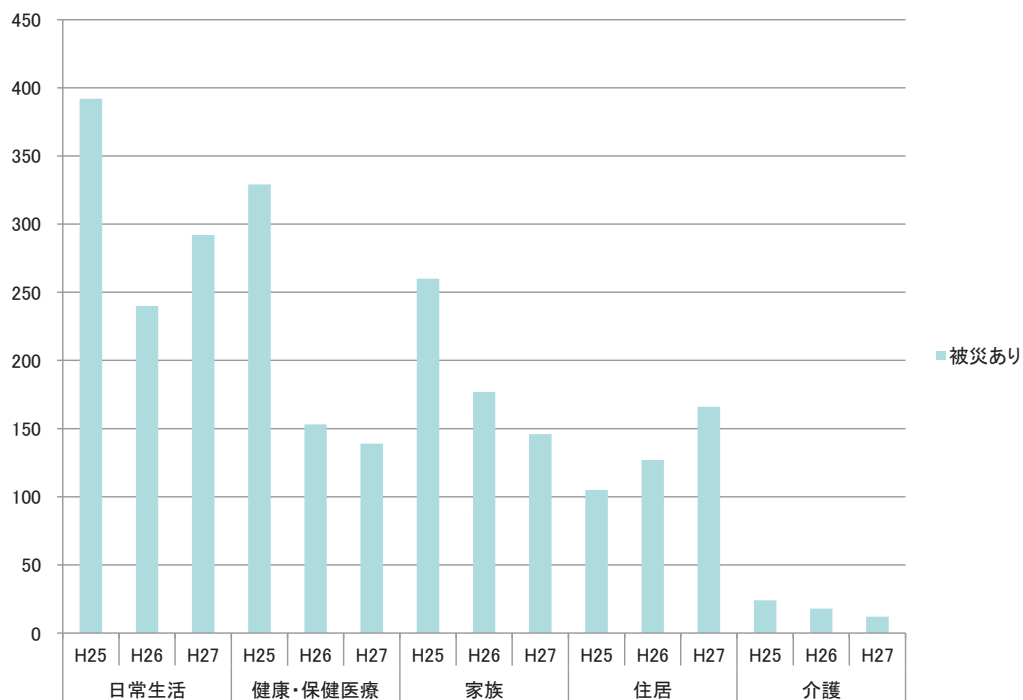
★対象世帯の居住区分別の訪問対応の比較

住宅等被災無

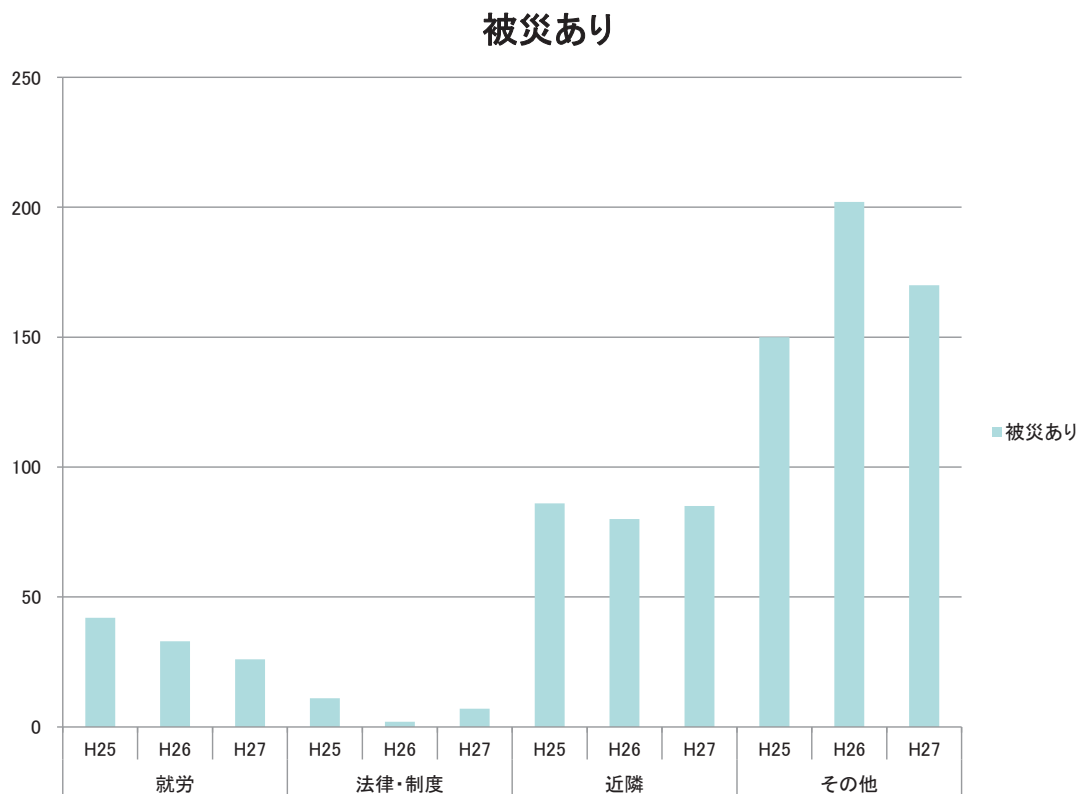


★平成25年度から平成27年度3月期の相談内容別の比較

被災あり



★平成25年度から平成27年度3月期の相談内容別の比較



★生活支援相談員の活動の効果と課題

- 被災者に寄り添い続ける ～ 気づきと発見
 日常を知ること
 活動の継続から生まれる信頼関係
- 関係機関との連携
 市保健師、地域包括支援センター、民生委員、自治会長 等々
 → 専門職へのつなぎ役
- 制度の狭間で苦しんでいる人
 既存のサービスにはつながらない 解決できない課題
- 5年の歳月からくる生活環境の変化

市民交流プラザ活動報告

地域包括ケアコーディネーター
行本清香

市民交流プラザ



下和野団地

2015年4月22日オープン



市民交流プラザ



生活支援相談員(社協)
市民交流プラザ常駐スタッフ(社協)
地域包括ケアコーディネーター

相談スペース
(在宅医療介護連携センター／みんなの相談室)

交流スペース

◇市民交流プラザ利用実績 (H27年4月23日～H28年3月31日)

	下和野団地内				その他周辺住民				来客等				合計 (人)	相談件数 (件)	開館日数 (日)
	大人(男)	大人(女)	子ども	計	大人(男)	大人(女)	子ども	計	大人(男)	大人(女)	子ども	計			
4月累計	12	39	3	54	2	9	0	11	50	16	0	66	131	6	6
5月累計	53	70	15	138	16	46	1	63	93	68	0	161	362	35	18
6月累計	79	100	0	179	54	70	2	126	48	56	0	104	409	62	22
7月累計	90	153	38	281	67	58	6	131	138	78	2	218	630	48	24
8月累計	108	105	37	250	57	57	10	124	82	69	0	151	525	39	19
9月累計	124	95	30	249	60	64	11	135	107	98	20	225	609	40	19
10月累計	144	125	24	293	112	121	15	248	53	54	0	107	648	67	21
11月累計	128	136	17	281	112	121	15	248	20	11	0	31	560	60	19
12月累計	138	128	15	281	110	102	11	223	43	9	0	52	556	50	20
1月累計	142	125	28	295	86	89	15	190	22	3	0	25	510	58	19
2月累計	155	158	18	331	78	143	17	238	52	15	0	69	638	51	20
3月累計	168	152	15	335	100	112	20	232	47	13	0	60	627	53	22
開設からの累計	1,341	1,386	240	2,967	854	992	123	1,969	755	490	22	1,269	6,205	569	229

市民交流プラザ利用実績

(H27年4月23日～H28年3月31日)

- 来所者数:計:6205人
 - 下和野団地の住民:計2967人
 - (大人(男性)1341人,大人(女性)1386人,子供240人)
 - 団地外からの住民:計2967人
 - (大人(男性)854人, 大人(女性)992人, 子供123人)
- 1日の平均来所者数:約27人
- 相談件数:合計569件 (1日の平均相談件数:約2.5人)

グループディスカッションにおける はまかだルール

- 1 ファシリテーター(進行促進者)にご協力を
- 2 話の内容は簡潔にわかりやすく
- 3 テーマ、具体目標に立ち返って適切に
- 4 メンバーの意見を否定や排除はしません
- 5 明るい表情で
- 6 はっきりと大きな声で

限られた時間で、エンパワーされるように

これからのコミュニティづくりにおけるそれぞれの役割 ～さまざまあっていいコミュニティづくり、居場所づくり～

◆1G

行政の役割	関係機関の役割	市民の役割
<ul style="list-style-type: none"> ・きっかけづくり ・ノルディック・ウォーキング教室 →介護予防教室から自主グループにつながるケース ※市がしかけたことで、ご夫婦同士が元気になったりもする 	<ul style="list-style-type: none"> ・きっかけづくりの必要性 ・支援者として、どのタイミングで引いていくのか・・・という課題もある 	<ul style="list-style-type: none"> ・きっかけづくりの必要性 ・お祭り=面倒？ ほだして準備、一緒にやるのが大切 ・若い世代や女性が、コミュニティに入ろうとしても入りにくかったり、言葉がけの仕方の課題もあつたりする

これからのコミュニティづくりにおけるそれぞれの役割 ～さまざまあっていいコミュニティづくり、居場所づくり～

◆2G

行政の役割	関係機関の役割	市民の役割
<ul style="list-style-type: none"> ・現場を知ろう →まずは知る 	<ul style="list-style-type: none"> ・同じ「同士」だけではないキッカケを仕掛けていく 	<ul style="list-style-type: none"> ・仲間同士の文化 仮設は仮設 地域は地域 公営は公営・・・ではなく

これからのコミュニティづくりにおけるそれぞれの役割 ～さまざまあっていいコミュニティづくり、居場所づくり～

◆3G

行政の役割	関係機関の役割	市民の役割
<ul style="list-style-type: none"> ・行政区の指定 ・交流会や入居前のしかけ ・さまざまな教室でのしかけ <p>例) 栃ヶ沢公営住宅 決まっている事に対して、どのように、誰がしかけるといいのか</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・関係機関だけでなく 過疎地への取組みはどうしていくのか 今ある資源、将来へのつなぎ方、活動の必要性 <p>→ 例) 社会福祉協議会としてどのようにしかけていくのか</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・声がけのしかた、場 → 誰がどの段階でしかけていくのか <p>→ 例) 内容や生活の仕方は、そこに住む人同士で考えていくことで確認できる</p>

平成28年度の陸前高田市保健医療福祉 未来図会議(月1回)の予定

○日程(予定)

H28年: 4/15(金)、5/27(金)、6/17(金)、7/22(金)
8/19(金)、9/16(金)、10/14(金)
11/11(金)、12/16(金)
H29年: 1/20(金)、2/17(金)、3/17(金)

○大きな方向性: 私から始める他人(ひと)ごと意識の解消

～ノーマライゼーションという言葉のいらないまちづくりの実践～

「はまってけらいん、かだってけらいん運動」の推進、ハイリスクアプローチとポピュレーションアプローチの融合・実践、市民・他分野機関との協働、未来図(計画)策定、居場所づくり、相互の経験に学ぶネットワークづくり

陸前高田市保健医療福祉未来図会議 メーリングリスト

◆こちらまでお知らせください。

<http://goo.gl/forms/NFUsNqBn3c>

陸前高田市保健医療福祉未来図会議
参加希望申し込みサイト

未来図会議への参加をご希望される方はこちら申し込みください。

*必須

氏名*

メールアドレス*

次回(平成28年度第2回)未来図会議予定

◆日時

平成28年5月27日(金)13:30~15:30

◆メインテーマ(仮)

下和野市民交流プラザから学ぶコミュニティの自然
発生的な拡がりを促進していくためには

◆会場:陸前高田市役所第4号棟第6会議室

◆次々回(平成28年度第3回)

平成28年6月17日(金)13:30~15:30

気仙がんの在宅療養研修会 2016

ご家族のための

がん患者さんとご家族をつなぐ

在宅療養ガイド

がん患者さんが安心してわが家で過ごすために



がんを患った方とご家族が、その人らしい生活を維持しながら、自宅や施設などの身近な場所で過ごすための仕組みをつくりあげるとき、医療・介護・看護・福祉の幅広い職種で、患者さんやご家族の思いに寄り添いながら議論することが大切です。岩手県気仙地域の在宅療養を支える専門職が一堂に会し、「がん患者さんが希望する場所で最期まで過ごすことのできる仕組みづくり」の実現に向けて、療養する患者さんとご家族を支える情報の共有と連携の必要性について話し合います。皆さまのご参加を心よりお待ちしております。

基調講演

- | | | |
|---------------------------------|------------|-------|
| 1. がん患者さんとご家族を支える情報と地域づくり | 帝京大学准教授 | 渡邊 清高 |
| 2. 気仙の在宅緩和ケアの現場から | 岩渕内科院長 | 岩渕 正之 |
| 3. つたえる・つたわることができるためにー在宅ケアの現場から | ホームクリニックえん | 高橋 美保 |

(参加者全員でグループに分かれてディスカッションを行います)

グループワーク

1. 在宅での療養を始める 意思決定とコミュニケーション
2. 「最後のとき」と向き合う 住み慣れた地域で支えるために
3. 人生の最後をともに生きる 家族と支える、チームでの療養支援
4. お別れの時期 看取りのときとグリーフケア

開催日時

2016年 5月21日 土 13:00~17:30 (開場12:30)

会場

岩手県立大船渡病院 大会議室
岩手県大船渡市大船渡町字山馬越10-1

対象

気仙地域およびその近辺で在宅医療に関わる医療・介護・看護・福祉・行政職、がん患者さんの在宅療養支援に関わっている方

定員

40名

参加費

無料

参加方法

事前申込が必要

お申し込みは、ウェブフォーム、FAX、電話にて

ウェブフォーム

<https://ssl.formman.com/form/pc/1LSlgmYSKXcjWAzp/>
FAX 0192-27-9285 TEL 0192-26-1111

締め切り

5月9日月



<アクセス>

- JR大船渡線(BRT)、三陸鉄道南リアス線でお越しの場合「盛駅」から約2.5km
- 大船渡線利用「大船渡駅」から約3.0km
→車で約5分・バス(県交通)利用で約10分
・徒歩で約45分



気仙がんの在宅療養研修会 2016 プログラム

申し込み期限：5月9日(月)
ウェブフォーム、FAX、電話にてお申し込みください。
定員超過により参加をお断りする場合に、事務局から連絡させていただきます。

開会あいさつ	伊藤 達朗 (岩手県立大船渡病院 院長 [大船渡市])
総合司会	村上 雅彦 (岩手県立大船渡病院 緩和医療科長 [大船渡市])

第1部 基調講演

がん患者さんご家族を支える情報と地域づくり
渡邊 清高
(帝京大学医学部内科学講座 腫瘍内科 准教授 [東京都板橋区])

気仙の在宅緩和ケアの現場から
岩淵 正之
(岩淵内科 院長 [大船渡市])

つたえる・つたわることができるためにー在宅ケアの現場から
高橋 美保
(ホームケアクリニックえん [北上市])

第2部 グループワーク

がん患者さんが安心してわが家で過ごすために
(参加者全員でグループに分かれてディスカッションを行います)
研修会の趣旨説明と進め方
渡邊 清高

テーマ 1 在宅での療養を始める 意思決定とコミュニケーション

テーマ 2 「最後のとき」と向き合う 住み慣れた地域で支えるために

テーマ 3 人生の最後をともに生きる 家族を支える、チームでの療養支援

テーマ 4 お別れの時期、看取りのときとグリーフケア

コーディネーター：佐藤 隆次
(一関病院 院長 [一関市])
武田 彩
(岩手県立大船渡病院 緩和ケア認定看護師 [大船渡市])
伊藤 達朗
(大船渡病院 院長 [大船渡市])
石川 淳子
(岩手県立高田病院 外来看護師 [陸前高田市])
岩井 正勝
(もりおか往診クリニック 医師 [盛岡市])
高橋 美保
(ホームケアクリニックえん [北上市])
澤田 正志
(総合花巻病院 医師 [花巻市])
長澤 昌子
(岩手医科大学附属病院高度看護研修センター 高度看護研修センター教員 兼 看護師長 [盛岡市])

全体ディスカッション
まとめ・閉会あいさつ 岩淵 正之

プログラムに関するお問い合わせ：気仙がん相談支援センター（岩手県立大船渡病院） TEL：0192-26-1111（平日9時～17時まで）

FAXでのお申し込みの場合はこちら

フリガナ お名前	性別 <input type="radio"/> 男性 <input type="radio"/> 女性
住所 〒 市 町 村	
電話番号	年齢 <input type="radio"/> 20代 <input type="radio"/> 30代 <input type="radio"/> 40代 <input type="radio"/> 50代～
所属機関	職名
経験年数	<input type="radio"/> 3年以上 <input type="radio"/> 3年以上5年未満 <input type="radio"/> 5年以上10年未満 <input type="radio"/> 10年以上

FAX番号 0192-27-9285

ウェブフォームでのお申し込みの場合はこちら

下記サイトからお申し込みください。

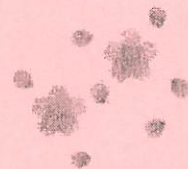
ウェブフォーム <https://ssl.formman.com/form/pc/1LSlgmYSKXcjWAzp/>



お申し込み・
お問い合わせ先

気仙がん相談支援センター
岩手県立大船渡病院
岩手県大船渡市大船渡町字山馬越10-1

TEL:0192-26-1111 FAX:0192-27-9285

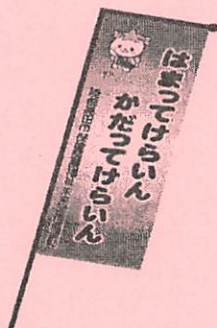


健康調査にかかると報告会の開催

さくらの花の開花が待たれる季節となりました。皆様いかがおすごでしょうか。
さて、大船渡保健所では、平成 27 年 7 月 1 日から陸前高田市および大槌町の応急仮設住宅に訪問し、皆様にお話を伺い、アンケートに御協力をいただきながら、身体やこころの不調、居住環境などについて調査を実施いたしました。
この度、調査の結果についての報告会を開催することといたしました。
つきましては、お忙しいところとは思いますが皆様のご参加をお待ちしております。



- 1 開催日時
平成 28 年 4 月 27 日（水曜日） 午後 2 時 30 分～午後 4 時 30 分
- 2 会場
陸前高田市コミュニティホール 2 階 中会議室
- 3 内容
 - ①調査結果報告
大船渡保健所長 久保慶祐
 - ②講話
「こころの健康のために」 こころのケアセンター職員
 - ③その他



問い合わせ先
岩手県大船渡保健所保健課
電話：27-9913（内線 239.245）

平成28年度陸前高田市介護予防事業



りくカフェ スマートクラブ

Rikucafe Smart Club

身も心も健康でいきいきと

りくカフェでは、地域の皆さんと楽しく介護予防・健康づくりに取り組んでいます！
気軽にできる体操、健康づくりのコツがわかる講座などの他、りくカフェ自慢のヘルシーな和定食を参加者の皆さんと楽しむというプログラムです。
お気軽にご参加ください！

<日時>： 5月11日・18日・25日 6月1日・8日・15日・22日

11:00～13:00 全7回 毎週水曜日

<会場>： もとカフェ・りくカフェ (高田町字鳴石22-9)

<会費>： 500円/回

<対象>： 陸前高田市在住で介護予防に興味のある方

<定員>： 8名

<主催>： 特定非営利活動法人 りくカフェ

<各回のプログラム>

11:00～11:15 血圧・体重測定
11:15～11:35 健康体操
11:35～12:00 健康ミニ講座
12:00～13:00 昼食

健康ミニ講座の内容

5/1 総論
5/8 ヨガの呼吸法
5/25 料理教室
6/1 食事指導
6/8 ツボ
6/15 口腔ケア
6/22 ふり返りの会

<参加お申込み・お問い合わせ> りくカフェ *申し込み締め切り 定員になり次第

陸前高田市高田町字鳴石22-9

TEL0192-22-7311